

【活用にあって】

文科省は古典学習に「読解し鑑賞する能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広く理解し古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる」というねらいを含ませています。古典に親しむ機会は日常生活の中では多くはないですが、目にし耳にした際にはじっくり味わってみる意識をもてるとよいと思います。

新聞の見出しは、語呂合わせやもじった表現が多々見られます。今回の記事もそこに注目して学びを広げていくと百人一首、新古今和歌集から古典に親しみ、持統天皇、藤原京、壬申の乱、大宝律令・・・と学びを広げることが可能です。NIE ならではの学習が展開できると思います。

解答例

問 1 : ①岡崎・奥山田 ②エドヒガン

③垂れ(枝垂れ)・薄桃色・12.5 ④持統天皇

問 2 : B

発展① : 春過ぎて夏来にけらし白妙の

衣ほすてふ天の香具山

(教科書によっては万葉集の中の歌として「春過ぎて夏来たるらし白たへの衣干したり天の香具山」と記載されています。)

発展② : 夏来にけらし ・ 春 ・ 春来にけらし